令和３年２月１０日

相談室からのお手紙（２月号）

愛媛県立松山中央高等学校

暖かい日が続いていますね。「椿さんが終わると春が来る」とよく言われていますが、できればこのまま寒さが戻らないといいなと思います。

さて、私は亡き祖父が存命だった頃、祖父について俳句を習っていました。祖父に見せるのは恥ずかしいのと下手すぎてがっかりさせるのではと、なかなか詠む気になれず、初めて祖父に句を見せたとき既に祖父は 91 歳でした。この前年、いつか祖父が亡くなったとき私は必ず後悔するだろう、１年でも半年だけでも祖父に喜んでもらいたいと思って、やっと勇気を出せたのです。

それでもやはり自信がなくて、最初私は言い訳のような質問をいくつも祖父にしていました。例えば「毎年桜を詠んでいたら、数年でもう桜は詠めなくなるんじゃないかしら」。祖父はいたずらっ子のような目で、それでいて祖父の考えを慎重にひとつひとつ拾い上げるように答えてくれました。

「わしは、俳句を初めて 60 年やが、毎年違う句ができるんよ。毎年毎年桜が咲いて、60 回桜を見て句を詠んだが、まだまだ詠み切らんなあ。わしのその時その時が違うけん、桜も違うように見えるんよ。同じ句にはならんのよ。毎年、今年はどんな句ができるか、おじいちゃん楽しみよ。」

その時の私には「毎年自分が違う」の意味がよく理解できていなかったように思います。それより、年数ではなく 60 回という数字が、少なすぎると感じ驚愕しました。私はまだたった 30 回しか桜を見ていないのかと。人は生涯で何度花を見上げるのでしょう。時の中で季節は巡り続け、また春が来て、桜が咲く度に。何を思い何を考えて。何故か、渦巻く銀河が思い浮かんでいました。

それから 10 年、俳句を通して祖父と共にいられたことは幸せでした。毎年、桜を見ると祖父の言葉を思い出します。今の自分は「今」だけなのですね。

スクールライフアドバイザー　岡本　綾

★スクールライフアドバイザー来校予定日（１２：００～１８：００）
　２月１２日（金）・３月４日（木）・９日（火）・１６日（火）・１８日（木）
★メールアドレス
　kawamin_chuosoudansitu@school.esnet.ed.jp
★生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆様も、気軽に利用してください。

レストランで注文と違う料理が運ばれてきたら、あなたならどうしますか？

★あなたの対応に最も近いものはどれでしょう？

① 何も言わない。

② 大声で怒鳴り、もう一皿要求する。

③ 注文した料理と違うことを伝え、取り替えてほしいと頼む。

①何も言わない

「もうこのレストランには来ないぞ」と愚痴はこぼすが、ウェイターには何も言わず、笑顔で受け応えをする。せっかくの料理は口に合わず、注文通りのものを要求しなかったこと、こんなレストランに来たことを後悔する。何だか自分がすっかり萎縮してしまった感じになる。

②大声で怒鳴り、もう一皿要求する

注文通りでないことを必要以上に大声で怒鳴り、もう一皿注文通りの料理を要求する。自分の要求が通ったことと料理には満足したが、怒鳴ったことでその場が気まずい雰囲気になり、食事の場が台無しになってしまう。一方、ウェイターは侮辱された感じがして、不愉快な気持ちがしばらく静まらない。

③注文した料理と違うことを伝え、取り替えてほしいと頼む

ウェイターに合図をしてテーブルに呼び、注文と違う料理が来てしまったことを伝える。丁寧に、しかしはっきりと注文した料理に取り替えてほしいと頼む。ウェイターは間違いを謝り、まもなく注文した料理を運んでくる。食事を満喫し、取り替えを依頼した自分の行為にも満足する。もちろんウェイターも客が満足したことで気分がいい。

ここで考えてほしいのは、自分にとっても相手にとっても、気持ちの良いコミュニケーションとはどういうものなのかということです。上記のレストランでの対応例の中で、私たちがお手本にしたいのは、もちろん③の対応ですね。日常生活の中で、自分が思っていたことと異なることはよく起こります。そんな時、我慢したり感情的に相手を攻撃したりするのではなく、自分も相手も大切にした自己表現ができたら、みんなが気持ちよく生活できるはずです。